

2018年JAF東日本ラリー選手権第7戦 2018年JMRC東北ラリーシリーズ第3戦 日本スーパーラリーシリーズ第3戦
日本アルペンラリー®ヒストリックシリーズ第3戦 横手ラリー2018 [JAF公認No.2018-6304]

開催日：8月2～4日 開催場所：秋田 格式：国内 主催：AKITA [クラブ登録No.加盟05026]

フォト／佐久間健、JAFスポーツ編集部 レポート／JAFスポーツ編集部

永由元人ランサー、猛追撃実って見事に逆転優勝



前半は出遅れるも後半のプッシュが効いて見事に逆転優勝を飾った永由元人／及川陽也組ランサー。

東北地区の新たなグラベルフィールドを開拓したラリーとしてここ数年、知られるようになった横手ラリーが今年も夏真っ盛りの8月上旬に行われた。今年はJAF東日本ラリー選手権のほか、JMRC東北ラリーシリーズ、日本スーパーラリーシリーズ(JSR)等も併催され、計42台が参加する大会となった。特にJMRC東北ラリーシリーズはこの一戦で今年のシリーズが終了とあって、東北のラリースト達にとっても重要な一戦となった。

大会は東日本地区戦、東北シリーズについては基本的には4日土曜午前中にレッキの後、午後には2本の林道を2回ずつ走る計32.7km、4本のSSが勝負の舞台となった。一方、JSRは3日金曜にLEG1として1本の林道を2回走行。4日午前はこの林道を今度は逆走で2回走り、午後は東日本戦と同じステージに臨むという構成だ。路面はすべてグラベル。荒れたり、掘れてワダチができるということもなく、硬く引き締まった箇所もあり、一見すると走りやすいように見えるが、概して見た目以上に滑りやすく難しいというのが多くのドライバーの印象だったようだ。

東日本地区戦BC-4クラスでまず飛び出したのが関東の上原利宏／佐瀬拓野組ランサー。「凄く滑ったけど攻めました」と8.6kmのSS1で2番手をキロ1秒もぶっちぎるベストでまずはトップに立つ。7.7kmのSS2では東北の大内考弥／過足宏組ランサーが同秒で並ぶが、上原組は連続ベスト。0.5秒遅れてファーストセクセンの永由元人／及川陽也組が続いた。

セクション2に入る

BC-3クラスは全日本組の上原淳／漆戸あゆみ組が貫録勝ちを見せた。



HQが置かれたホテルウエルネス横手路に隣接する秋田ふるさと村の駐車場がサービスパークとなった。

と、SS1の再走となったSS3で今度は永由組がSS1の上原組のタイムを0.2秒凌ぐスーパーベストをマーク。サードベストに終わった上原組との差を一気に詰めて0.5秒差に迫る。波に乗った永由組は勝負のかかったSS2の再走となったSS4でも、自らのタイムを10秒以上も縮める圧巻のタイムをマーク。上原組も6.8秒詰める激走を見せたが及ばず、永由組が見事な逆転優勝を飾った。

「1ステは上原選手にやられたんで2ステは気合入れました。スタート前にリアのトーがうまく調整しきれなかったのでサービスで直したら、2ステはちゃんと走れるようになりました。高速の下りのコーナーとか落ちたらヤバイとこ





1.BC-2クラスは伊東太吉／山田一成組ヴィッツが快勝。2.BC-3クラス3位入賞の高野啓嗣／大高徹也組。3.伊藤一也／奥玉昌明組はBC-4クラス3位に入賞。4.橋本奨／吉田知宏組がBC-4クラス4位に入賞した。5.玉熊孝次／遠藤誠組はBC-3クラス4位に入賞した。6.工藤芳文／阿部和人組はBC-3クラス東北勢最上位の2位入賞。7.スタートダッシュを決めたBC-4上原宏／佐瀬拓野組だったが2位に甘んじた。8.スイフトの須藤慶伍／河野功組がBC-2クラスの2位に入った。9.BC-4で5位入賞の熊坂敏彦／熊坂時男組。10.立花志謙／竹下紀子組はBC-4で6位入賞。11.BC-4期待の若手、和氣高純／久保田真生組は7位にとどまった。12.BC-4の8位には青木光広／池田茂組が食い込んだ。13.オーブンクラスは菅原康広／高橋誠組が優勝した。

ろもありましたけど、いい道ですね。

基本的には硬い所を選んで走るようにしましたが、1番ゼッケンだったんで砂埃がないクリアな条件で走れたのも良かったと思います。このラリーは去年、上原選手に負けてるんでリベンジできて良かったです」と永由選手。この勝利で東北シリーズのチャンピオンも手中に収めた。BC-4クラスの3位には冬のハチ公ウインタラリーを制した岩手の伊藤一也／奥玉昌明組が入り、東北勢最上位をマークしている。

一方、BC4クラスは全日本ラリー福島戦のセッティングテストも兼ねて上原淳／漆戸あゆみ組が参戦してきた。SS1では宮城の元全日本ラリーチャンピオン、小野寺清之／山口清組がCJ4A ミラージュで、上原組の全日本仕様シビックに3.7秒差の2番手で喰らいつつが、SS2で惜しくもリタイア。その後はやはり上原組が、やはり断トツの速さを見せて結果的に全

日本スーパーラリーシリーズは炭山組が3連勝

シリーズ3戦目を迎えた日本スーパーラリーシリーズは、断トツの総合優勝候補で今回はGRBインプレッサを駆った炭山裕矢／保井隆宏組がSS1でバンクを喫して大きくタイムロス。LEG1は野村家宏／高梨晃臣組インプレッサが首位で折り返すが、LEG2で猛追した炭山組が逆転に成功。3連勝を飾った。RC2クラスは高篠孝介／廣嶋真組ブジョーが優勝した。

14.15.RC2クラスは炭山裕矢／保井隆宏組がシリーズ3勝目を飾った。16.17.RC3クラスは高篠孝介／廣嶋真組が制した。18.ヒストリックBクラス優勝の小西重幸／謝宗佑組。19.同Aクラス優勝の新垣浩／新垣久美子組。



SSでベストを奪取。総合でも4位に入るタイムで快勝した。

「いつもに比べるとミスの少ないラリーでしたね(笑)。1ヵ月前に走ったラリーカムイに似てる所もあったけど、ツイスティな所もあって、一筋縄ではいかない道。気持ちよく滑らせると、横滑りが止まらなくなるのでタイムが出ないんです。いい勉強になりました」と上原選手

はラリーの印象を語った。東北シリーズでは工藤芳文／阿部和人組が1位で上がったが、今回、クラス3位に入った玉熊孝次／遠藤誠組がシリーズチャンピオンを獲得した。

BC-2クラスでは伊東太吉／山田一成組ヴィッツが上原組同様、全SSでベストを奪う快走を見せて優勝。サバイバルラリーとなった第4戦に続く今季2勝目を上げた。